

住民の定住意識に影響を与える地区環境の要因に関する一考察

(株) 豊田中央研究所 正会員 ○小塚 みすず

1. はじめに

ここ数年、我が国の人口は横ばいであるものの、2007年から自然減少に転じており、以降長期の人口減少過程に入っている¹⁾。人口問題をはじめ、さまざまな問題がある中、今後、国として望ましい都市の構築が課題としてあげられている。例えば、総務省の「定住自立圏構想」、国土交通省の「集約型都市構造」など、その実現に向けた取組みが行われている。しかし、計画的に住民の定住や移住を促すのであれば、都市や地域の構造を概略的に示すだけではなく、住民の暮らしや地区環境を把握した上で、住民が実際にそこでの居住を望むような魅力ある空間を形成することも必要である。そこで本研究では、魅力ある空間とは何かを探るために、住民の地域への定住意識と地区環境に着目し、アンケート調査を通して、定住意識と地区環境の関係について考察することを目的とする。

2. アンケートの概要

本調査は国内49都市^{注1)}の15歳以上の住民を対象に、2008年10月23日～28日に実施したWEBアンケートである。その結果、2,977名の回答を得た。回答者の主な個人属性の構成率は、性別は男性50.4%:女性49.6%であり、年齢は10歳代以下:6.7%、20～50歳代:各年代20%前後、60歳代以上:16.2%、職業は会社員(自営業を含む):52.5%、専業主婦:17.9%、学生・生徒:10.2%、パート・アルバイト:12.0%、無職:7.4%である。

3. 研究結果および考察

3.1 定住意識と地区環境

まず、定住意識について、「現在お住まいの地域に今後も住みたいですか」の質問に、「是非住みたい」～「全く住みたくない」の5段階評価で尋ねた。その結果、「是非住みたい、どちらかと言えば住みたい」の回答者は合わせて71.0%と、現在の地域に対する定住意識の高さが明らかとなった(図-1)。次に、回答者宅の近隣の様子(以下、地区環境)について、表-1の27項目を提示し「全くそうだ」～「全くそうでない」の5段階評価で尋ねた。評価の平均値

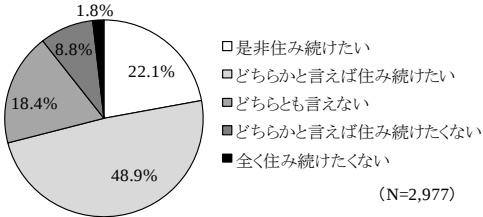


図-1 定住意識の評価

表-1 地区環境の項目とその評価 (N=2,977)

分類	「地区環境」の項目	略記	平均値
近接性	近隣の大型スーパーや商業施設などに容易に行くことができる	商業施設	0.38
	街の中心など都心部に容易に行くことができる	中心市街地	0.42
	図書館、スポーツクラブ、コミュニティセンターなどを使用しやすい	公共施設(利便性)	0.09
	歩いていける範囲内に日常の買い物ができる店がある	徒歩圏内の店	0.45
移動性	高速道路や自動車専用道路を利用しやすい	自動車道	0.19
	バスや電車などの公共交通機関を利用しやすい	公共交通機関	0.32
	近隣には自転車道が整備されている	自転車道	-0.30
	近隣には歩道が整備されている	歩道	0.19
空間性	家の周りの道路は道幅が広くゆったりしている	十分な道幅	-0.04
	近隣には公園や広場がある	公園・広場	0.43
	家の周りの道路には街路樹が多い	街路樹	0.05
	公園、図書館、運動場などの公共施設が良く整備されている	公共施設(整備)	0.13
雰囲気	家の周りには駐車場が少ない	駐車場	-0.13
	夜間の街路灯が整備されている	街路灯	0.19
	近隣は閑静なところである	閑静	0.22
	近隣の建物の外観や風景は魅力的である	景観	-0.08
安全性	近隣環境の維持保全は良くおこなわれている	生活環境	0.16
	住宅のスタイル・外観はバラエティに富んでいる	住宅の外観	0.05
	近隣の犯罪率は低い	犯罪	0.16
	近隣の交通量は少ない	交通量	-0.20
社会的性	近隣では交通事故が起こらない	交通事故	0.12
	安全に一人歩きできる	歩行安全性	0.26
	屋外で子供を遊ばせても安全である	子供遊びの安全性	0.07
	職業、年齢など幅広い層の人が住んでいる	多様な居住者層	0.34
生活レベル	近隣の人々のコミュニティ活動への参加は積極的である	コミュニティ活動	-0.15
	近隣同士の付き合いは多い	近所づきあい	-0.12
	近隣は自分の所と変わらない生活レベルにある	生活レベル	0.19

※以降、本文中では各項目の文章を「略記」したものを用いる。
平均値は、全くそうだ=1、そうだ=0.5、どちらとも言えない=0、そうでない=-0.5、全くそうでない=-1と得点化し、各項目に対する一人当たりの平均値を算出している。

は高いほど地区環境が良いことを意味すると考えられる。表-1より、「徒歩圏内の店」「公園・広場」「中心市街地」などの値が高い。一方、「自転車道」「交通量」「駐車場」などの値は低い。

3.2 定住意識に影響を与える地区環境の要因

まず、定住意識と地区環境との関連をみるため、各カテゴリー間のクロス集計、独立性の検定の後、Cramerのコンティンジェンシー係数(以下、Cramer's V)を求めた。その結果、図-2より、ほぼ全ての項目で定住意識が高いほど地区環境も整っていると評価していることが分かる。また、Cramer's Vをみると、「生活環境」

キーワード 定住意識, 地区環境, Web アンケート, Cramer's V, 数量化理論Ⅱ類

連絡先 〒480-1192 愛知県愛知郡長久手町大字長湫字横道 41-1 (株)豊田中央研究所 TEL: 0561-71-7106

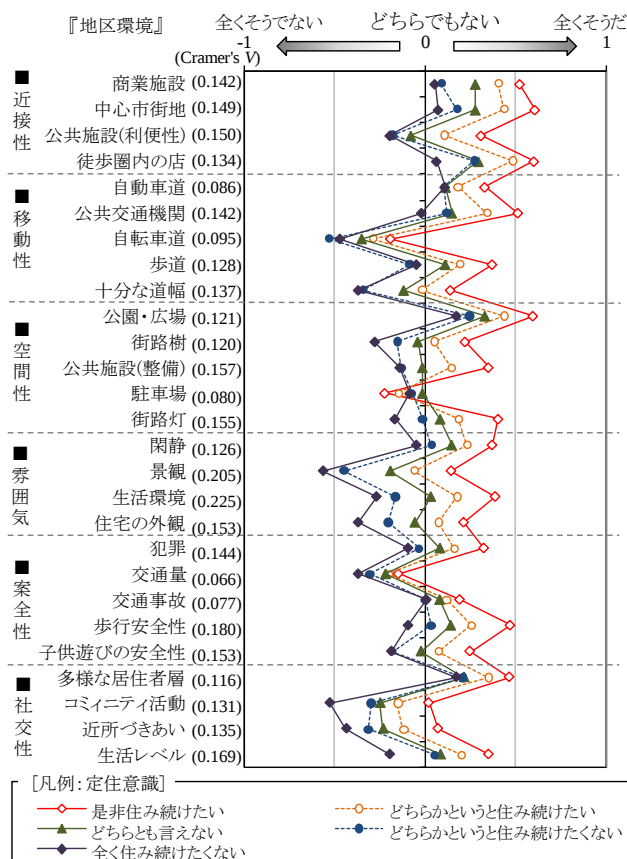


図-2 定住意識と地区環境の評価の関連 (N=2,977)

が最も定住意識と関連があることが示された。なお、定住意識と各地区環境の項目の間にはいずれも統計的な有意差(有意水準 1%以下)が確認できた。

次に、定住意識の評価に影響を与える地区環境の要因を詳しくみるため、数量化理論Ⅱ類により分析を行った。目的変数は定住意識であるが、「是非住み続けたい、どちらかと言えば住み続けたい」を『定住意識あり』、「全く住み続けたくない、どちらかと言えば住み続けたくない」と『定住意識なし』と2つのカテゴリーに再編成した他、「どちらとも言えない」の回答は分析に用いないこととした。説明変数は表-1の27の地区環境項目のうち、各項目間の内容の類似性、相関などを考慮し、17項目を分析に用いた。その結果、目的変数は全2,428サンプル(内訳は、定住意識あり:2,113、定住意識なし:315)となり、定住意識の選択結果に偏りがあるため、相関比は0.198と低い値になっている。しかし、レンジと偏相関係数との順位に大きな不整合は見られないため、この分析結果を考察する。表-2より、レンジ値の大きな上位5項目は、「生活環境」「歩行安全性」「中心市街地」「商業施設」「住宅の外観」であり、これらが定住意識に影響する主要因といえる。これらは、地区環境が整っているほど定住意識も高く

表-2 定住意識に影響を与える地区環境の要因分析

分類	説明変数	レンジ値 (偏相関係数)			
		そうだ	どちらとも言えない	そうでない	
近接性	商業施設	1,660	432	336	0.690 ④
		0.123	-0.033	-0.567	(0.016 ⑤)
	中心市街地	1,764	382	282	0.725 ③
		0.138	-0.203	-0.587	(0.111 ②)
	公共施設(利便性)	1,106	666	656	0.304 ⑨
0.128		-0.176	-0.038	(0.060 ⑧)	
移動性	自動車道	1,274	621	533	0.263 ⑩
		-0.881	0.013	0.181	(0.049 ⑩)
	自転車道	525	519	1,384	0.063 ⑩
		0.041	0.016	-0.022	(0.012 ⑮)
	歩道	1,182	107	1,289	0.179 ⑬
0.066		-0.039	-0.113	(0.032 ⑫)	
空間性	公園・広場	1,782	361	285	0.229 ⑪
		0.052	0.117	-0.177	(0.041 ⑪)
	街路樹	1,017	666	745	0.055 ⑪
		0.017	0.017	-0.038	(0.012 ⑪)
	駐車場	561	732	1,135	0.131 ⑭
		0.069	0.042	-0.062	(0.028 ⑬)
	街路灯	1,308	626	494	0.066 ⑮
-0.014		-0.013	0.052	(0.012 ⑮)	
雰囲気	生活環境	1,133	953	342	1.189 ①
		0.197	0.122	-0.992	(0.176 ①)
	住宅の外観	868	982	578	0.590 ⑤
		0.173	0.092	-0.416	(0.109 ④)
安全性	交通事故	1,013	888	527	0.337 ⑧
		0.090	0.043	-0.247	(0.064 ⑦)
	歩行安全性	1,368	737	323	0.742 ②
		0.143	-0.004	-0.599	(0.109 ③)
社会性	多様な居住者層	1,551	642	235	0.211 ⑫
		-0.007	0.068	-0.142	(0.028 ⑭)
	近所づきあい	657	864	907	0.385 ⑥
		0.163	0.110	-0.223	(0.082 ⑥)
	生活レベル	1,144	1,024	260	0.359 ⑦
		0.089	-0.032	-0.269	(0.051 ⑨)
N=2,428		相関比:0.198		的中率:79.4%	

なる傾向にある。このことから、人々の地域への定住を図る際は、地区の『雰囲気』『近接性』『安全性』を整えることが必要であると考えられる。例えば、地区内の環境の維持・保全や歩行の安全性については、住民自身がお互いに気を配り合うことなどでも良好な地区環境が醸成されていくのではないかと思います。

4. おわりに

定住意識と地区環境に関する WEB アンケートの結果、1)回答者の定住意識が高い、2)徒歩圏内に日常の買い物ができる店がある、また、分析結果から 3)地区環境を維持・保全することが人々の地域への定住につながる大きな要因である、などが明らかとなった。分析により、定住意識に影響を与える地区環境の要因を示したが、これらが現在の定住をもたらした大きな要因となったのかについては、今後の検討課題である。

注釈

注 1) ●三大都市圏中心都市:東京区部/千葉市/川崎市/横浜市/名古屋市/京都市/大阪市/神戸市 ●三大都市圏周辺都市:いわき市/取手市/所沢市/松戸市/青梅市/春日井市/豊橋市/豊田市/岐阜市/静岡市/宇治市/堺市/奈良市 ●地方圏中枢都市:札幌市/仙台市/広島市/福岡市/北九州市 ●地方圏中核都市:弘前市/盛岡市/郡山市/宇都宮市/金沢市/福井市/浜松市/姫路市/松江市/徳島市/高松市/松山市/高知市/熊本市/鹿児島市 ●地方圏周辺都市:小樽市/上越市/小松市/磐田市/呉市/今治市/諫早市/浦添市

参考文献

1) 総務省ホームページ: <http://www.stat.go.jp/data/nihon/02.html>